

Vol.9：インターンシップをより有意義にする「軸の仮置き」とは

『リクれば』は、リクルートキャリアの新卒領域に特化した活動レポートです。学生の皆さま（以下、学生）の意見や、就職活動での悩みなど「声」を明らかにしながら、当社サービスの実態をご報告。今後のお知らせも発信してまいります。

『声』を聞く

Reflect the opinions

新年を迎えました。新型コロナウイルス感染症の影響が引き続き残る中、2022年卒の学生は、就職活動が始まる3月を前に、冬のインターンシップ・1day 仕事体験などに参加しながら最終準備の段階に入る学生も多いことでしょう。オンラインでの参加が多くなるなど、例年とは様相が異なる中、この期間でいかに実り多い経験を積めるのか悩まれている方もいるのではないのでしょうか。実際に学生からは今、こんな声が聞かれます。

学生の声：

●インターンシップだけで本当に企業の全容が見えるか分からない	●インターンシップで社員の人やほかの参加者ときちんとコミュニケーションが取れるか不安です
●オンラインが主流となってしまう、本来のインターンシップに参加することができない	●インターンシップには参加した方がよいと聞くが、今年はオンライン型のもが多く、それらに参加して意味があるのかと疑問に思い参加していないが、参加しないことにも不安を感じる
●その職業に就職する意欲がない人間がインターンに行ったりするのは間違っているのかも教えてもらえないため不安	●WEB 開催のインターンシップもあるが対面とは変わらないのか
●就職のために自身の能力を向上（資格取得や、プログラミングスキル取得）させた方がいいのか、インターンに参加した方がいいのかが分からない	●（インターンシップに参加して）企業のことをよく知れたことがよかった。今後はより長い時間のインターンシップに参加して、よりグループディスカッションなどで質問を増やしたい

やみくもにインターンシップに参加する前に、企業選びや働き方の「軸」を考えてみよう

新型コロナウイルス禍では、就職活動準備も例年とは違い、オンラインでのインターンシップ・1 day 仕事体験の開催が多くなっています。オンライン化が進み、移動にかかる時間やコストを削減できることで、より視野を広げて多くの企業のプログラムに参加できる可能性はあります。しかし、「数多く体験しても自分が何をやりたいのか分からない」「会社説明会のような簡易的なものが多くて特徴がつかみ取れない」など本質的な不安を感じる声も多く聞かれます。

せっかく大切な時間を使って参加するインターンシップ・1 day 仕事体験だからこそ、有効に活用したいですよね。『リクナビ就職エージェント』のキャリアアドバイザー佐藤 光紘と、キャリアアドバイザー濱田 千佳は、就職活動準備に励む学生に対して、「自分の軸を見つけること」「自分の軸を仮置きして準備活動に挑むこと」が重要だと説きます。就職活動が始まる3月までの約2カ月間を有意義に過ごせるよう、自分の「軸」を見つけ出し「仮置き」する方法や意義について解説します。

リクルートキャリア 『リクナビ就職エージェント』 キャリアアドバイザー 佐藤 光紘
濱田 千佳

自分の「軸」って何？「仮置き」に必要な5つの視点

「軸」とは、就職先を決定する上で、自分の中に潜在的に眠っている「就職先の企業を選択する上で、自分自身が何を大切にしたいのか」を判断する要素を指します。大事なのは、まずは自分の中で軸を定めてみることです。私たちはそれを「仮置き」と呼んでいます。なぜ「仮」なのか。それは、最初から軸を完全に把握している必要はないからです。インターンシップ・1 day 仕事体験に参加してみたり、企業研究やOBOG訪問などをしてみたりすることでアップデートしていき、これまで自分では気付かなかった本当の「軸」にたどり着けばよいのです。またその軸は、目先の就職活動での企業選びだけでなく、就職して社会に出てからも働く上での指針として磨き続けることができます。

それではまず、「軸」を構成する「5つの視点」を見ていきましょう。

「軸」を考えるための5つの視点

軸の観点	定義	具体的な軸（例）
本質的にやりたい仕事 (Will)	自然と向く興味／好きの対象 (その人自身の志向性)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新しいものを作りたい ・ 決まったものの組み合わせを考えるのが好き ・ 人から感謝の声をもらえるのが好き
自分の役割を認識する (Can)	自然とやっている行動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 試行錯誤して改善を繰り返せる ・ 異なる意見の合致点を見つけて議論を前に進められる
職場の環境・風土 (Culture)	上記 (Will、Can) を 発揮するために必要な要素	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会社と共に成長できる環境 ・ 相談しやすく安心できる環境
キャリアの志向 (Career)	将来のキャリアステップの 理想イメージ	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゼネラリスト志向 ・ スペシャリスト志向 ・ 起業をする
条件 (Condition)	譲れない条件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関東／関西勤務 ・ 土日はしっかり休日

「職場の環境・風土 (Culture)」や「キャリアの志向 (Career)」、「条件 (Condition)」は、分かりやすい視点のため、すぐに自分の中で答えがでてくるのではないのでしょうか。多くの学生は、これら3つの視点ばかりに着目しがちですが（もちろんこれらの視点も大変重要です）、社会に出て働く上で本質的に必要なのは、「どのような事業を志望しているのか」「自分の強みをどのような業務内容でどう生かせるのか」という2つの視点なのです。自分は「何がやりたいくて」、そのやりたいことを達成するために「何ができるのか」。自分が「本質的にやりたい仕事 (Will)」や、「自分の役割を認識する (Can)」ことを掘り出していくことが肝要なのです。

こうして、まずは自分の中の「軸」を導き出せても、「私は、僕は、この軸で絶対に会社を選ぶんだ！！」と、固執する必要はありません。インターンシップ・1 day 仕事体験や会社説明会など、さまざまな経験を重ねることで軸はアップデートされ、より自分の中で鮮明化していきます。まず重要なのは、現時点での「軸」を明らかにして「仮置き」することなのです。

「仮置き」することで、

- 「自分の軸に合った事業内容だったな」
- 「軸にはなかったけど事業内容に興味があったな。なぜ興味を持てたのかももう一度軸を考えてみよう」

などと内省を深め、自己理解を促進することができるのです。

「軸」って具体的にどうやって見つけるの？

5つの視点をご理解いただけたところで、実際に「軸」を仮置きしてみましょう。「軸」の探し方にはさまざまな方法があります。モチベーショングラフを作成したり、人生年表を作り幼少期から振り返ったりすることで、自分が何を大切に生きてきたのを見いだしていきます。『リクナビ就職エージェント』では、記憶の中にまだ鮮明に残っているであろう、大学時代や高校時代にフォーカスして思い出してほしいと問いかけています。

大学時代や高校時代を思い出していただき、「自分が前向きに取り組めた経験」や、「やりがいを感じる事ができた経験」などを中心に詳細を書き出し、一番前向きに取り組めた経験の順位付けしていきます。同時に、書き出した経験の中で、自身のモチベーションが最も上がったポイントを特定していきます。それにより、経験の中に隠れているモチベーションの要因や、生かされた持ち味を掘り出していくのです。実際のキャリアアドバイスでは、面談を実施する前に、「経験の棚卸ワーク」と題し、約10日間から2週間程度かけてそれらの経験を自身で振り返っていただくようにしています。

経験の棚卸ワーク：あなたが前向きに取り組めた経験とは何ですか？

『リクナビ就職エージェント』

 **就職活動のファーストステップである自己分析の準備をしましょう！**

STEP 1

初めに、あなたが大学生の間に取り組んだことを全て挙げてください。

なかなか思い出せない方は大学1年生から何をしてきたか、時系列順に思い返してみてください。

ここでは「就職活動で使える話かどうか」という観点は全く気にしなくて大丈夫です。

学業・アルバイト・サークル・部活動・課外活動・趣味や習慣など何でも構いません。

例を参考にして、思いつく限り書いてみてくださいね。

-
-
-
-
-

STEP 2

STEP 1 で挙げたそれぞれの取り組みの中で自分が主体者となった出来事を挙げてみましょう。

例を参考に記入してください。

※STEP 2以降の（例）はSTEP 1の「ダンスサークル」についてのみ書いていますが、ご自身でワークをする際は、出来るだけ多くの出来事を出してみてくださいね。

※同じダンスサークルの経験でも、ダンスを習得する経験・幹部として公演会をまとめる経験・ダンスを振付する経験など、取り組んだことが複数ある場合は分けて書いてください。

順位	時期	取り組んだこと
(例) 1	(例) 大学3年の6月	(例) ダンスサークルの公演。自分が執行代の年の公演で、ライブ配信での公演のトリとなる FINAL 曲の創作を担当した。

※『リクナビ就職エージェント』「経験の棚卸ワークシート」から抜粋

★ワークシートはこちらよりダウンロード可能です。

https://www.recruitcareer.co.jp/news/keiken_work.pdf

「何が興味を駆り立てたのか」「やりがいをもって活動できたのはなぜか」という視点から複数の経験を振り返ることで、自分が夢中になれるポイントや、強みを具体的に特定していくことができます。

いよいよ最後のステップです。この棚卸ワークで経験を開いたら、その各々の経験の中で「楽しく、やりがいを感じた、プラスとなったこと」、そして逆に「ストレスになり、苦手だと感じた、マイナスとなったこと」を特定していきます。自分が主体的になることが出来た経験のプラス面とマイナス面を把握していき、自分なりに言語化していくのです。その上で、ご家族や友人、キャリアセンターの方やキャリアアドバイザーなどとぜひ会話をしてみてください。社会に出て「やりたいこと」、それに対して自分が「貢献していけること」がより鮮明化されていきます。このやりがいと強みに、職場の環境・風土、キャリアの志向性、条件を追加して、自分だけの「軸」を導き出していきます。

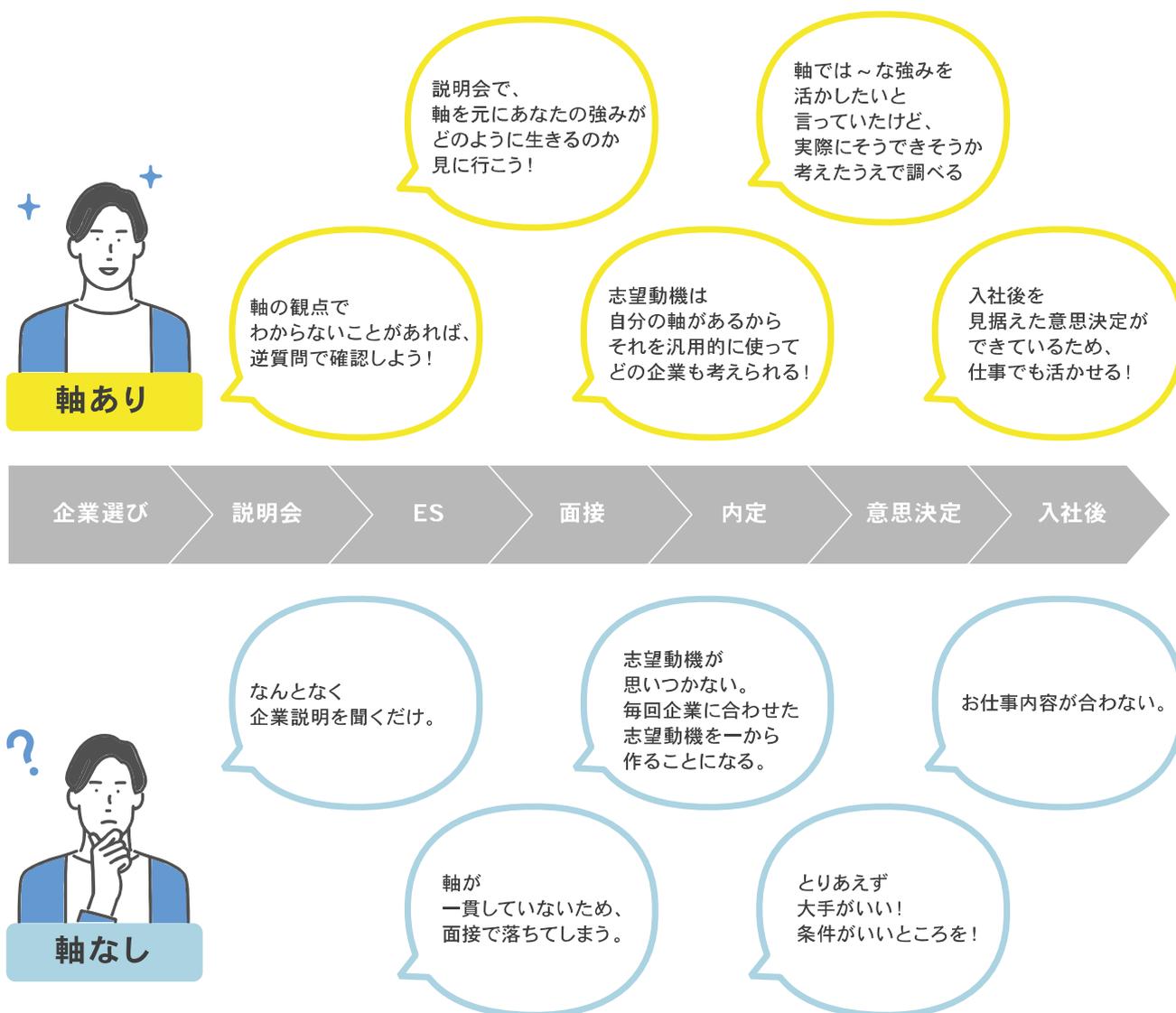
「軸」がある就職活動とない就職活動はどう違うのか

「軸」がある就職活動とない就職活動。具体的にはどのような差が生じていくのでしょうか。

「軸」がない就職活動では、企業説明会やインターンシップなども参加はするけれど「なんとなく」参加して

しまうため、主体性に欠けてしまい吸収すべき情報が定着せずに終わってしまいます。その後、選考が進み面接などにおいても、自分の持ち味をどう生かせるのか、という軸が明確に分かっていないため、志望動機が思いつかないなどの状況に陥ってしまいがちです。そのような状態では、仮に内定を獲得して入社しても、入社後に「仕事の内容が合わない」や「やりたいと思ったことができない」、「こんなはずではなかった」と後悔してしまうこともあり得るでしょう。

一方で、自分の軸を持って就職活動に臨むことができれば、自分の軸を元に強みがどのように生きるのか、という観点で説明会を聞くことが出来るため、環境や条件面ではなく、自分自身の持ち味を生かせること、興味関心が高いこと、そして成長のために切磋琢磨できることなど、自分の「Will (意思)」や「Can (できること)」に目を向けた就職活動を意識することができるのです。また、「今まで見てきていない業界だけ自分が仮置きした軸に合いそうだな」、「今の軸には合わないけどこれには興味があるな」など、軸があることで自分の視野を広げることができます。この繰り返しで、軸をアップデートしながらより深い内省ができるようになり、自己理解が深まるのです。



出典：『リクナビ就職エージェント』

「軸」を仮置きすることで見てみる業界を広げた事例

私立大学文系（関西在住）Aさんの場合

大手食品メーカー・商品企画希望 → IT業界 SEへの就職に決定

経験の棚卸ワークを実施したあとさらに・・・

<プラスのこと>

- 学業とバイトの両立の中で自分のリソースを考えていつ何をするのかの予定を組んだり、効率よく進める組み合わせを考えたりするのが好き
- 英語が好き。理由は、単語を単純に覚えられること、文法もルールが決まっているのでやりやすい楽しい
- バイトの中ではそれぞれ役割を見ていかに効率化できるか考えながら動いて改善していくことで一緒に働いている人に喜んでもらえるのが楽しい

<マイナスのこと>

- バイトの経験から、お客様に今月売りたいお店都合の商品をお勧めするなどにストレスを感じていた

【ポイント】

食品メーカーの商品企画志望だったが、経験の棚卸ワークから「効率化をはかることへ面白みを感じる」「チームで役割分担を決めてプロジェクトを推進してメンバーに喜んでもらうことに楽しさを感じる」という強みを発見できました。そこで、決められた期日の中で、チーム人数や作業日数などの管理をしてプロジェクトを推進していくことに持ち味を発揮できるIT業界の「SE（システムエンジニア）」の仕事にも興味関心を向けることに。また、プラスだけでなく、マイナスの経験を深掘りしていったことで、営業に近い商品企画においては付いて回るであろう「お客様へ会社都合の商品をお勧めする」ということに対してストレスを感じると分かったため、当初希望していた食品メーカーではなく、「好き」を活かせるIT業界への志望変更を決意できたのです。

繰り返しになりますが、こうして導き出した「軸」を「仮置き」してから、インターンシップ・1day仕事体験に参加していくことで、徐々に「軸」が磨かれて明確化してきます。すると、企業選びで変化があるはず。これまで関心のなかった業界や業種にまで選択肢が広がったり、あるいは、なんとなく大手企業などぼやけていた選択の基準がよりシャープになったりもするでしょう。納得度の高い就職活動となるよう、今のうちから「軸」の特定と「軸の仮置き」の準備をしておくといでしょう。

● 【10/9】 リクれば 特別編集 「大卒求人倍率」をひもとく	https://www.recruitcareer.co.jp/news/information/2020/201009-02/
● 【10/1】 リクれば Vol.8 夏のインターンシップ総括と、『リクナビ』からの提案	https://www.recruitcareer.co.jp/news/information/2020/201001-01/
● 【9/2】 リクれば Vol.7 留学計画が白紙になった学生は何を自己 PR できるのか	https://www.recruitcareer.co.jp/news/information/2020/200902-01/
● 【7/21】 リクれば Vol.6 学生に必要な「就活 PDS サイクル」とは	https://www.recruitcareer.co.jp/news/information/2020/200721-01/
● 【6/18】 リクれば Vol.5 選考が進み始めたいま、学生にお伝えできること	https://www.recruitcareer.co.jp/news/information/2020/200618-01/
● 【4/24】 リクれば Vol.4 今年のインターンシップについて、いまお伝えできること	https://www.recruitcareer.co.jp/news/information/2020/200424-01/
● 【3/18】 リクれば Vol.3 就職活動は「オンライン化」するか。心構えは？	https://www.recruitcareer.co.jp/news/information/2020/200318-01/
● 【2/26】 リクれば Vol.2 今年の就職活動についてお伝えしたいこと	https://www.recruitcareer.co.jp/news/information/2020/200226-03/
● 【2/13】 リクれば Vol.1 これからの『リクナビ』が目指す姿	https://www.recruitcareer.co.jp/news/information/2020/200213-01/